

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 5	7	ヘルパンギーナ	↓ 87	110
咽頭結膜熱	↓ 14	18	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 7	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 75	80	急性出血性結膜炎	↓ 0	1
感染性胃腸炎	↑ 236	221	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 13	15
水痘	↓ 40	45	細菌性髄膜炎	→ 1	1
手足口病	↓ 113	119	無菌性髄膜炎	↓ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↑ 2	1	マイコプラズマ肺炎	↓ 1	2
突発性発しん	↑ 57	49	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- ヘルパンギーナ

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

- ヘルパンギーナ : 菊池、天草
- 手足口病 : 有明、菊池
- 咽頭結膜熱 : 山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフル	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所			5	24	28	11	31		20		23	2		12	1		1		
山鹿保健所			3		14	3	4		2		1		*	*					
菊池保健所		3	3	20	71	7	26	1	15		18	4							
阿蘇保健所				1	1								*	*					
御船保健所					1						3		*	*					
八代保健所				4	14		3		7		4								
水俣保健所				1	4	1	3				2	1	*	*					
人吉保健所			1	9	10	2	10		3		5		*	*					
有明保健所		2		3	59	10	18	1	5		6			1					
宇城保健所			2	7	29	6	4		1		6		*	*					
天草保健所				6	5		14		4		19								
計		5	14	75	236	40	113	2	57	0	87	7	0	13	1	0	1	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	5		3			1		1														
咽頭結膜熱	14			4	4	1	1	1	2			1										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75		2	1	7	14	13	10	9	8	1	4	3									3
感染性胃腸炎	236	6	37	64	17	17	17	21	12	12	9		13	1	10							
水痘	40	2	5	10	7	6	3	1														
手足口病	113		5	30	24	24	11	11	2	2	2		1	1								
伝染性紅斑	2			2																		
突発性発しん	57	1	28	26	2																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	87		12	29	21	7	11	1	2	1	2		1									
流行性耳下腺炎	7				2		2	1	1		1											
眼科定点年齢区分	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	13			1		1							1		1	5			1	1	2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1														1							
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	1			1																		
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																					

ヘルパンギーナ、手足口病に注意しましょう



手足口病とヘルパンギーナの報告数は、減少傾向にあります。地域別では、手足口病は有明・菊池が、ヘルパンギーナは菊池・天草が警報レベルとなっており、まだまだ注意が必要です。

ヘルパンギーナは喉の強い痛みと発熱が特徴であり、手足口病は手のひらや足の裏、口の中などに発疹がでて、発熱は軽度のことが多い病気です。どちらの病気もほとんどの場合は自然に治りますが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあります。元気がない、高熱が続く、頭痛や嘔吐を認める場合には早めに医療機関を受診しましょう。

手足口病、ヘルパンギーナともに原因となるウイルスのタイプがいくつかありますので、同シーズンに何度もかかる可能性があります。8月も報告数が多い時期ですので、引き続き予防対策をしっかり行ってください。

感染経路

- ・咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します(飛沫感染)
- ・便に排出されたウイルスが手を介し、口や眼などの粘膜に入って感染します(経口・接触感染)

予防のポイント

- ・予防接種はありません。
- ・外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いをしっかり行うことが大切です。治ったあとも1ヵ月程度は便のなかにウイルスがいますので、特に排便後の手洗いは徹底するようにしましょう。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活ではタオルを共用することは避けましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課